



コラム

招聘研究員レポート

名前	所属	招聘期間
黄 清 喜	北京師範大学文学院 民俗学与文化人類学研究所 文学博士研究生	2012 年 9 月 28 日～ 10 月 18 日
李 惠	中山大学 中国非物質文化遺産研究中心 RA 博士課程	2012 年 10 月 9 日～ 10 月 29 日
霍 九 倉	華東師範大学 文芸民俗学専攻 博士課程	2012 年 11 月 18 日～ 12 月 1 日
Nicolette Lee	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科 修士課程	2012 年 12 月 3 日～ 12 月 22 日
Caroline Boissier	Universite Paris Diderot - Paris 7 CRCAO (パリ第7大学) 博士課程	2013 年 1 月 6 日～ 1 月 26 日
鄭 潔 西	浙江工商大学 東亜文化研究院 講師	2013 年 1 月 7 日～ 1 月 27 日
韓 男 洙	漢陽大学校 東アジア文化研究所 研究員	2013 年 1 月 9 日～ 1 月 29 日
Liliana Granja Pereira de Morais	サンパウロ大学大学院 日本文化専攻 修士課程	2013 年 1 月 21 日～ 2 月 10 日

幸福な交流の日々

黄 清 喜

(北京師範大学文学院)



中国江西省南豊県三溪郷石郵村の儺劇は、古風かつ質朴でありながら完全な形で、中国の国内外に大きな影響を及ぼした。そのため、多くの学者が海外から押し寄せ

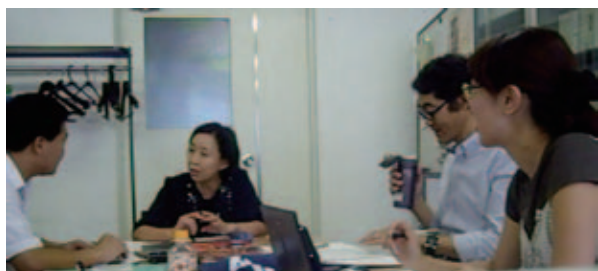
てきた。私の乏しい知識によれば、石郵村の「儺」に興味を持ち、さらに儺劇の見学及び調査を行ったことがある海外の学者は、日本だけでなく、フランス、韓国、アメリカ、カナダ、ドイツなど数多くの国の学者も含まれる。中でも日本の学者が最も多く、特に、田仲一成氏・後藤淑氏・廣田律子氏・諏訪春雄氏・山口建治氏、星野紘氏、長瀬一男氏、村上昌人氏、有沢晶子氏などの学者が有名である。この度、私は先生方に教えを請うため、訪問研究員として日本を訪れた。訪問を通して、先生方と交流ができ、資料の閲覧と収集ができた。このようなことは私の視野を大きく広げてくれたほか、専門知識の基礎も固めることができた。今回の訪問は大変価値のあるものだったと確信している。



小熊誠先生との記念撮影



田仲一成館長・小熊誠先生との記念撮影



廣田律子先生による指導を受ける様子

石郵村の「追儼」は宗族で行われるものである。小熊先生（神奈川大学）の家族・宗族に関する専門知識は、私を大きく啓発してくれた。さらに、先生は宗族に関連する古典的著作をリストアップしてくださり、おかげで私は宗族社会に対して系統的理解を持つことができたようになった。また小熊先生は、私を連れて田仲一成東洋文庫理事も訪ねてくださった。田仲理事は、私が準備した石郵村の儼劇に関する 26 もの質問に対して、丁寧な回答をしてくださり、大いにご指導を頂いた。田仲理事は食事にもご招待してくださったほか、私に「明末清初的密密教」（大澤颯浩）という論文もコピーしてくださったりと、我々を大変歓迎してくださった。

また、私は、かねてより山口建治先生（神奈川大学）の言語民俗学と鐘馗の研究に対して憧れを持っていた。大変光栄なことに、2012 年の旧正月の際に、私は山口先生と一緒に石郵村で調査を行う機会を持つことができた。山口先生との出会いを果たすことができた。今回、再び山口先生にお会いすることができて、非常に嬉しかった。先生は私を鎌倉へ連れて行ってくださり、そこで私は鎌倉時代の民俗文化を体験することができた。

廣田先生（神奈川大学）の勧めもあり、私は星野先生（神奈川大学）も訪問することもできた。訪問してみて、私は星野先生の、比較の視点から振り付けを分析するという方法に惹かれた。さらに、長瀬氏（わらび座）の研究は廣田先生と共同でモーションキャプチャーを用いて石郵村の「儼」を研究することであることも知った。秋田県では、モーションキャプチャーで石郵村の「儼」の動きを分析し、それをパソコンで再現することが既にできているとのことだった。それを知って、私は今回の交流の目標を定めることになった。すなわち、モーションキャプチャーによる「儼」の再現を調査することである。そこで私は、廣田先生と一緒に秋田へ向かうこととなった。

私の視野を広げるために、廣田先生は岩手県北上市に



わらび座 長瀬一男主任と演者たち

ある「鬼の館」への訪問も手配してくださった。そこで、私は「たざわこ芸術村民族芸術研究所」を訪問することができ、劇団わらび座が公演した『遠野物語』を観賞し、秋田魁新聞社の村上氏（論説副委員長）に取材することもできた。また、「男鹿真山伝承館」にある「なまはげ館」では、見学だけでなく、当地の民俗を体験させてもらい、さらに男鹿半島沖の夕陽を観賞することもできた。3 日間だけの旅だったが、調査内容や形式は豊富かつ多様で、さらに風景も美しく、非常に楽しいものとなった。廣田先生と共に歓談しながら、美しい景色を観賞し、当地の美味しいものを味わい、和やかで幸せな時を過ごすことができた。廣田先生には、感謝してもしきれない。今回の旅を通して、石郵村の「儼」に関するモーションキャプチャーの制作を調査するという目的を達成することができた。さらに時間は短かったが、私は楽しく幸せに満ちた気分の中で交流を深めることができた。私は、私の研究に大変ご尽力いただいた先生方の深い親愛の情を感じながら、生涯にわたり役に立つ知識を得ることができたことに、心から感謝している。